



2025年4月14日
株式会社ゼロ

報道関係各位

車両輸送の舞台裏(1) ～陸送業界のプロたちの知られざる仕事術

車両輸送のリーディングカンパニーである株式会社ゼロ（本社：神奈川県川崎市、代表取締役：高橋俊博、東証スタンダード：9028）は、業界最大手として全国にネットワークを広げ、新車、輸入車、中古車、高級車等、あらゆる車両を安全・確実・丁寧にお届けしています。

1961年に日産陸送として設立した当社は、2001年の独立を経て現社名となり、全国約50カ所の物流拠点を展開。約1000両のキャリアカーを保有し、年間約370万台、1日約1万台という圧倒的な輸送実績を誇っております。



車両輸送業界において3月中旬から4月中旬は、年度末の引越しシーズンと新年度開始に伴う車両移動が重なる繁忙期。当社も引越しに伴うマイカー輸送業務や、リース車の更新および新車購入による中古車売買の増加により、この時期は全国の事業所において非常に厳しい繁忙期を迎えます。

繁忙期の課題解決に取り組む「川崎プロジェクト」の効果とは

2025年の繁忙期は、いわゆる2024年問題も加わり、輸送依頼が通常よりも増加することが予想されていたこともあり、例年以上の配車調整や納期遅延などの深刻な課題が発生する懸念がありました。そこで、当社は昨秋より、主力物流拠点のひとつである川崎市東扇島の「川崎カスタマーサービスセンター（以下、川崎CSC）」（収容可能台数約580台）において、繁忙期対策として「川崎プロジェクト」を実施することにしました。



2024年の川崎CSCでの繁忙期の様子。本来、キャリアカーが駐車すべきスペースにまで荷積みを待つ車が並ぶ

このプロジェクトでは、以下のような施策により、業務効率化と納期の安定化を図りました。

- ・首都圏エリア（23区や横浜市など）の車両引取範囲の見直し
- ・構内作業員（※1）チームを再編成し、8時間×3交代制による24時間稼働体制を確立
- ・積み下ろし作業を1カ所に集約し、物流拠点や港での一括管理を実現

その結果、例年3月の繁忙期のピーク時には、車両で埋まりがちであった川崎CSCにおいても、時間帯による波はあるものの、混雑期間を短縮できるなどの改善効果が現れています。



2025年3月下旬、川崎CSCの繁忙期の様子

自走員やテクノロジーのスペシャリストなど多彩な人材が活躍

当社の強みは、さまざまな専門性を持つプロフェッショナルの存在です。キャリアカーを巧みに操るキャリアカードライバーや「自走員(※2)」、車両輸送のドライバーを支える現場のリーダー「チーフパイロット」や配車のエキスパート、車両整備の熟練技術者など、現場を知り尽くした多彩なプロフェッショナルが活躍しています。さらに、車両輸送向け専用アプリを自社開発するなど、テクノロジーを活用した業務支援にも注力しており、車両輸送の品質と効率を両立するため、長年蓄積された輸送技術と最新のデジタル技術を融合した革新的なサービスを徐々に展開しているところです。

車両輸送という仕事は、専門分野に特化したたくさんのスタッフたちが協力し、次々と引き継がれてようやくお客様のもとに届けられます。その過程には、プロフェッショナルたちの卓越した技術とチームワーク、そして全国規模で張り巡らされたネットワークの活用が欠かせません。今回より、ゼロの車両輸送の舞台裏をさまざまな視点から捉え、その魅力についてシリーズとしてご紹介していきます。

今回は、車両輸送を担当するドライバーたちの高度な技能と、その業務の実態に迫ります。ぜひ、ご期待ください。

※1 構内作業員：

各地にあるゼロの物流拠点にて、その構内において商品車の移動や整理などを行い、キャリアカーへの車両の積み下ろし等の荷扱作業や、自走員の輸送準備作業をサポートする「スタンバイ作業」などを行うことを中心業務としている専門ドライバー。

※2 自走員：

車の大きさや重さ、道路事情等の理由により、キャリアカーで輸送できない乗用車やトラックなど多種多様な車を直接運転し、お客様にお届けする専門ドライバー。

■メディア・取材のご案内

株式会社ゼロでは、各種メディアの皆様からの取材依頼を随時受け付けております。現場におけるドライバーの活躍、デジタルツールの導入、班組織による現場支援の詳細など、当社独自の物流体制について、ぜひご確認ください。

【お問い合わせ先】

株式会社ゼロ 広報担当

TEL：044-520-0106

Email：pr-zero@zero-group.co.jp

Web：<https://www.zero-group.co.jp>